

## 平成31年度岡山県学力・学習状況調査 真庭市の概要について

### はじめに

平成31年度岡山県学力・学習状況調査（以下県調査と称する）の結果が公表されました。本調査の目的は、児童生徒の学力及び学習の状況を把握・分析して指導の成果と課題を検証・改善するとともに、結果に基づき個々の児童生徒が自らの学習等の改善を図ることです。本調査の内容は、身に付けるべき学力の一部分や、学校が行う教育活動の一側面ではありますが、真庭市の教育の推進状況を把握する重要な指標であると捉えています。

真庭市教育委員会では、本調査の趣旨に沿って、教育の充実に資する取組を、学校、保護者、地域社会が一体となって推進するために本調査を公開します。

### 調査実施日

平成31年4月18日（木）

### 対象と内容

	小学校（20校）			中学校（6校）	
	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
市内受験者数	347人	346人	375人	353人	361人
県内受験者数	9754人	9832人	9907人	10076人	9603人
全国受験者数	約8万人	約12万人	約15万人	約10万人	約11万人
実施教科等	国語、算数	国語、算数	国語、算数 質問紙	国語、数学 質問紙	国語、数学 英語、質問紙

### 調査結果概要

#### 1 平均正答率

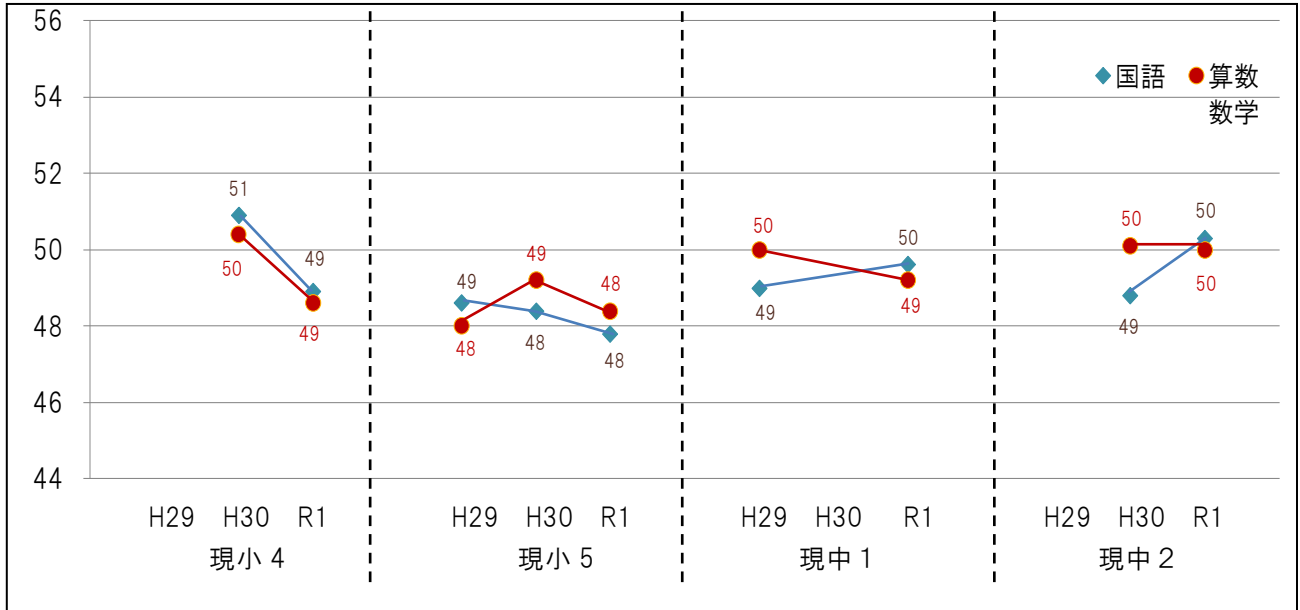
学年	年度	国語						算数					
		市	県	全国	県との差	全国との差	標準スコア	市	県	全国	県との差	全国との差	標準スコア
小学校 3年	R1	75	75	74	0	1	51	73	73	75	0	-2	49
	H30	77	76	76	1	1	51	75	74	74	1	1	50
	H29	78	77	80	1	-2	49	73	73	77	0	-4	48
小学校 4年	R1	66	68	68	-2	-2	49	72	73	75	-1	-3	49
	H30	66	69	70	-3	-4	48	75	75	76	0	-1	49
	H29	70	70	71	0	-1	50	76	75	77	1	-1	49
小学校 5年	R1	70	72	74	-2	-4	48	64	66	67	-2	-3	48
	H30	70	72	73	-2	-3	48	63	64	65	-1	-2	49
	H29	74	74	76	0	-2	49	73	70	73	3	0	50
中学校 1年	R1	70	71	70	-1	0	50	70	72	72	-2	-2	49
	H30	60	62	63	-2	-3	49	73	72	73	1	0	50
	H29	72	73	74	-1	-2	49	70	67	68	3	2	51
中学校 2年	R1	67	68	66	-1	1	50	54	56	54	-2	0	50
	H30	66	66	64	0	2	51	61	63	58	-2	3	51
	H29	70	70	70	0	0	50	56	59	58	-3	-2	49

学年	年度	英語					
		市	県	全国	県との差	全国との差	標準スコア
中学校 1年	R1						
	H30						
	H29						
中学校 2年	R1	54	58	62	-4	-8	47
	H30	48	54	52	-6	-4	48
	H29	57	60	61	-3	-4	48

※標準スコアとは、全国における平均正答率を50としたときの換算値のことです。

## 2 同一集団における経年比較（真庭市と全国平均正答率の差の推移）

※小学校第3学年については、前年度調査を実施していないため経年比較の対象としていません。また、中学校の英語についても同様です。



## 3 全体の傾向

### (1) 標準スコア

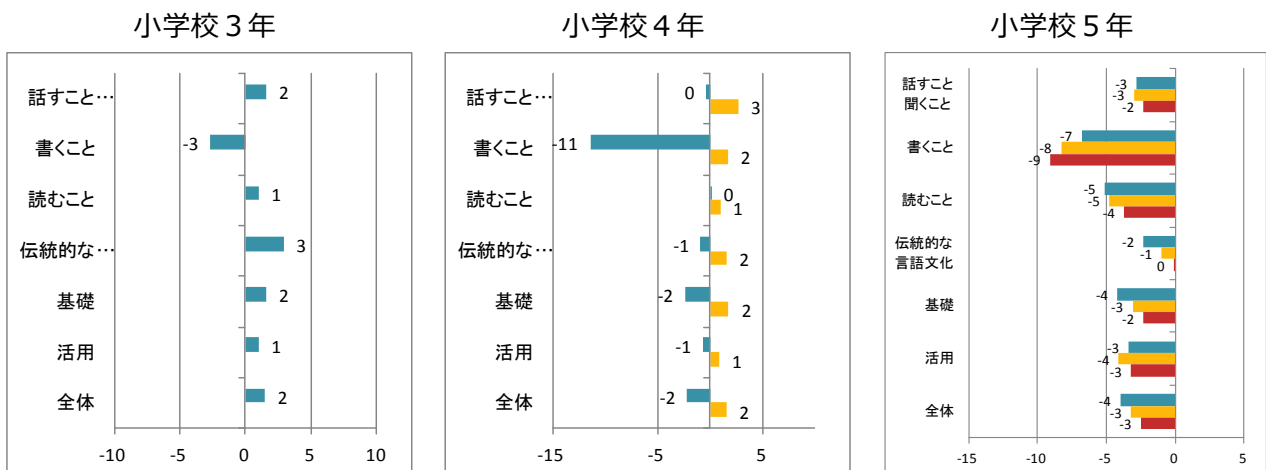
小学校では、3年生の国語を除いて全国値を下回っています。中学校では、2年生の国語、数学で全国値と同等または上回る結果となりましたが、2年生の英語では、全国値を大きく下回っています。

### (2) 同一集団における経年比較

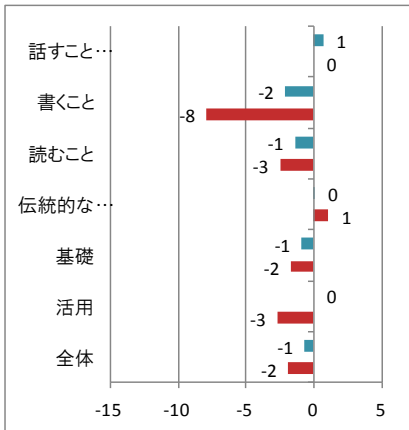
小学校は下降傾向です。中学校は、国語で上昇傾向、数学でやや下降傾向です。

## 同一集団における経年比較 教科別結果概要（各教科領域毎の全国平均正答率との差）

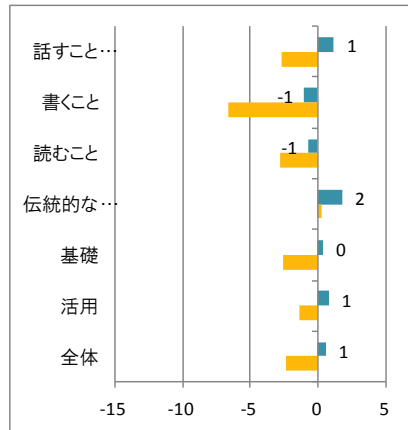
### 1 国語



中学校 1年



中学校 2年



■グラフの説明■

青：R 1 年度の全国平均との差  
 橙：H30 年度の全国平均との差  
 赤：H29 年度の全国平均との差

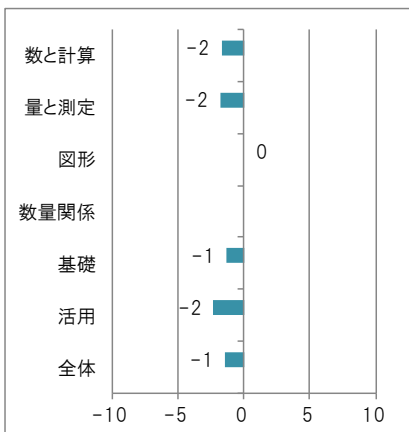
話すこと・・・  
 話すこと・聞くこと  
 伝統的な・・・  
 伝統的な言語文化と国語の  
 特質に関する事項

※現小学校 3 年生は、H29 ・H30 年度、小学 4 年生及び中学 2 年生は、H29 年度県調査を受けていないため、データを掲載していません。

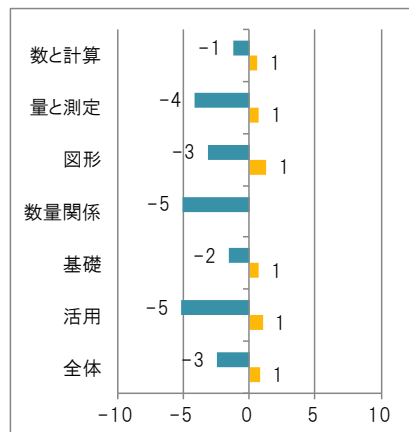
国語では、小学校、中学校ともに「書くこと」に課題が見られます。段落構成を考えて文章を書いたり、理由を添えて自分の意見を書いたりすることについて、全国値との差が大きくなっています。

2 算数

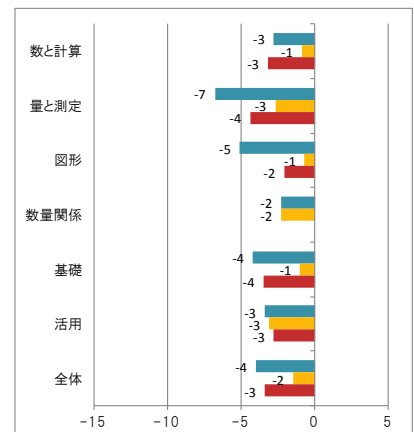
現小学校 3年



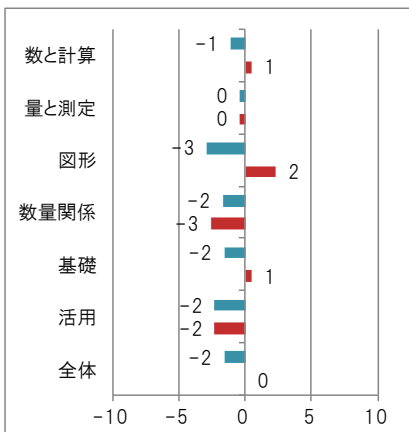
現小学校 4年



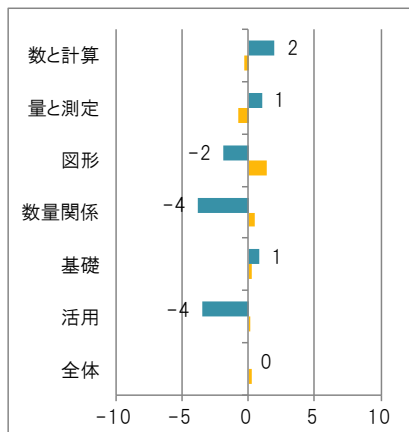
現小学校 5年



現中学校 1年



現中学校 2年



小学校 3 年時は「数量関係」の領域について学習しないため、数値を示していません。

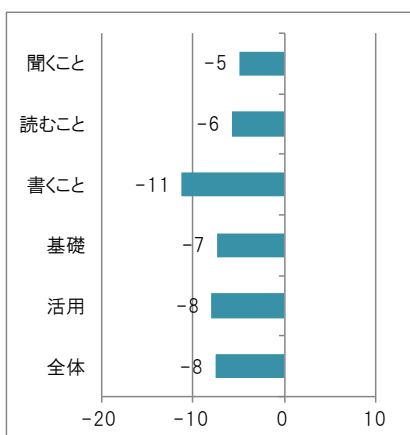
小学校 4 年・H30 年度、小学校 5 年・H29 年度の「数量関係」についても同様です。



算数・数学では、小学校、中学校ともに、全国値と比べ低い値となっている領域が多く、学習内容の定着に課題がみられます。

### 3 英語

現中学校2年



英語に関しては、依然として全領域（聞くこと、読むこと、書くこと）で全国値を大きく下回っており、課題が見られます。

#### ■ グラフの説明 ■

英語は、中学2年生しか調査を実施していません。よって、同一集団による経年比較ができませんので、R1年度の結果のみ示しています。

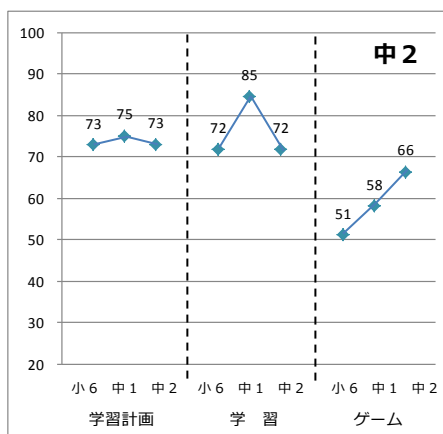
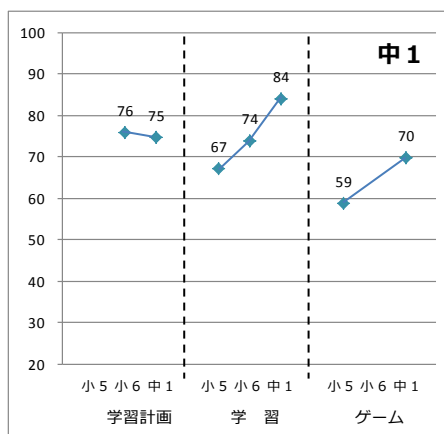
### 質問紙調査結果概要

質問紙調査は、学習意欲、学習方法、学習環境等に関して、小学校では約60項目の調査を行っています。ここでは、これまで真庭市において課題のあった項目に絞り、その傾向の推移をお知らせいたします。

#### ■ 学習習慣の確立 ■

- 1 【学習計画】自分で計画を立てて勉強をしていた。
- 2 【学 習】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強をしていた。
- 3 【ゲ ーム】普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、テレビゲームをしている。

### 1 各学年の学習状況調査結果における肯定的回答の割合〔単位：％〕

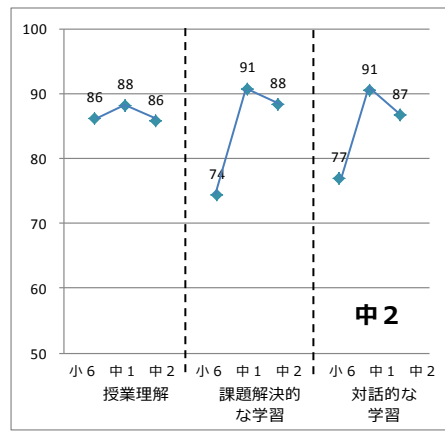
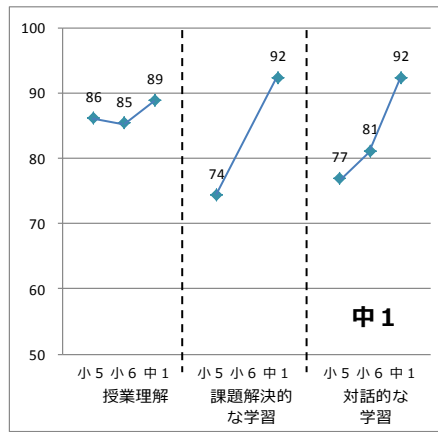
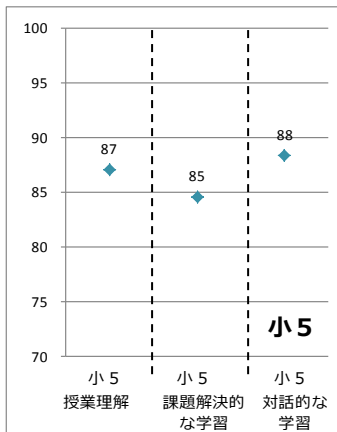


※小6の数値については、全国学力・学習状況調査における同内容の質問項目を参照しています。

自ら計画的に学習する児童・生徒の割合は大きく変化していません。家庭学習の時間は、中学校1年生をピークに、減少する傾向にあります。ゲームの時間については、年々増加する傾向にあります。

#### ■ 授業改善の取組 ■

- 1 【授業理解】算数・数学の授業の内容はよく分かる。
- 2 【課題解決的な学習】授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。
- 3 【対話的な学習】授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。



※数値が入っていない箇所は、その年度の質問紙調査にその質問項目がなかったことを意味します。

小学校5年生から中学校1年生にかけて、授業改善に対して肯定的な割合が上昇していますが、中学校2年生においては全ての項目でやや下降しています。

## 県学力・学習状況調査を受けて

### 1 確かな学力の育成を目指して【授業改善】

各校が、自校の結果を分析し課題を明確にするとともに、育成すべき力を全職員で共有した上で学力向上に向けた共通実践（授業改善・学習内容の確実な定着・学習習慣の形成）を推進していきます。

授業改善については、これまで推進してきた「岡山県学習指導のスタンダード」及び「増補版」に基づいた授業実践を継続しつつ、「教え込みの授業」から「学び合いの授業」の実現を目指します。

授業後半に実施する練習問題、家庭学習、小テストなどにより、児童生徒のつまずきを把握し、授業を改善したり補充学習を実施したりし、児童生徒一人一人の確実な学習内容定着を図っていきます。

### 2 「生活をコントロールする力」を育成する【学校・家庭の連携】

児童生徒が、「生活をコントロールする力」を育てていくことが必要です。運動・学習・気分転換など様々な活動時間があり、それぞれ必要な時間です。自分の状況をとらえ、全体の中でバランスがとれているか確認をし、限られた時間をどのように行動するか計画を立てる、そして改善の必要があれば修正していくことができる力を身に付け行くことが必要になります。学校と家庭が連携し、時間の使い方を「指示」するのではなく、「子ども自身が考える」機会を設け支援する方法を共有していくことが求められます。例えば、生活習慣の「改善目標」を立ててみるといった試みなどから初めてみるのもよいのではないかと考えます。

### 3 真庭市が目指す児童生徒の育成に向けて【学校・家庭・地域全体の連携】

未来に生きていく子どもたちに「確かな学力を！」ということは、市民共通の願いであると言えます。子どもたちのよりよい現在と未来のために、「確かな学力と豊かな心を備え、夢をもって自ら学ぶ子どもの育成」を真庭市のめざす学校教育として掲げています。真庭市がめざす学校 教育の理念の下、各地域、各学校の現状を踏まえ、「どのような子どもを育てていくのか（ビジョン）」を再度確認し共有していくことが必要であると考えます。そして、そのビジョンに向けて進んでいくために、本調査の結果を1つの指標として、「何をどのように行うか、改善していくのか」検討していくことが求められます。これらの取組の推進の中心は学校ではありますが、学校だけでは今抱えている問題を改善していくことは不可能です。子どもに関わるすべての人の協力体制を広げていきたいと思っております。市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願いいたします。